

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学実習Ⅲ
講師	看護教員	実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(90時間)	開講年次	2年次 第1学期～ 3年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	慢性的な経過をたどる患者に対して、3側面から理解をしましょう。対象の「生活」や「どのように生きて来られたか」に目を向け、障害受容や生活の再構築に向けた関わりについてしっかり考えましょう。他職種との連携についても患者を通して学んでほしいと思います。		
目的：成人・老年期で慢性的過程にある対象および家族の特徴を総合的に理解し、看護実践のための基礎的能力を身につける 目標：1. 病気と共に生活する対象の全体像を理解できる 2. 慢性的な経過の健康障害の程度に応じた対象の援助ができる 3. 慢性的な経過をたどる対象の障害受容に向けた精神的支援の必要性がわかる 4. 対象および家族へ自己管理能力獲得のための支援ができる 5. 継続看護、多職種との連携の重要性について理解できる 6. 看護者として必要な態度を身につけることができる			
授 業 内 容			
1. 病気と共に生活する対象の全体像の理解 1) 対象の不可逆的な病態の変化による健康障害の理解 2) 対象が長期にわたる健康障害をどのように受け止めているかについて理解 3) 長期にわたる健康障害が社会的役割に与える影響の理解 2. 慢性的な経過の健康障害の程度に応じた対象への援助の実施 1) 健康障害に伴う日常生活の援助 2) 慢性期疾患に関連する合併症予防の援助 3) 安全の確保 3. 慢性的な経過をたどる対象の障害受容に向けた精神的支援の必要性の理解 1) 長期にわたり疾病のコントロールが必要となる対象・家族の障害受容段階 2) 対象、家族の障害受容の段階に応じた支援方法 3) 対象の苦悩を表出する支援 4) 自己決定への支援 4. 対象および家族へ自己管理能力獲得のための支援 1) 社会復帰に向けた自己管理能力拡大への援助 (1) 自立度に応じた日常生活の指導 (2) 自己モニタリングの方法を指導 (3) 動機づけを考慮した指導(アンドラゴジー・自己効力感・行動変容モデル) 2) 対象に合わせた指導・教育・援助 (1) セルフケア能力に合わせた援助の内容・方法 5. 継続看護、多職種との連携の重要性 1) 退院後、生活能力を維持し日常生活が継続できるための援助が分かる (1) 継続看護(外来・在宅・施設) (2) 退院支援に向けての関連職種(ソーシャルワーカー・ケアマネージャー・退院調整看護師 他) (3) 関連職種との連携の必要性とその内容 (4) 活用可能な社会資源・経済支援のための制度 6. 看護者として必要な態度 1) 相手(患者・家族・医師・看護師・他職種)を尊重し、思いやる姿勢 2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み(研究的視点、他の研究成果の活用) (3) カンファレンス・振り返りの会等の積極的参加(他者の価値観を受け止め、自己の考えの表現) (4) 期限の厳守(提出物・約束事) (5) 体調管理 (6) 批判的思考 3) チームワーク (1) 報告・連絡・相談 (2) チーム内外の相互役割の調整 (3) 困難な状況時の応援要請 4) 医療安全への配慮 5) 自己の看護観の明確化			
授業方法	臨地実習		
評価方法	以下の内容を実習評価表(100点)に沿って評価を行う 看護実践・実習態度・出席状況・実習レポート		
備考	関連科目で用いたテキストを活用する。実習要項で提示された事前学習をする。 関連科目：人体形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、看護学概論、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		